

廃バッテリー

8月3052トン、許可失効が顕在化

韓国向け輸出半減

財務省が27日発表した貿易統計速報によると、8月の韓国向け廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）の輸出量は前月比56.7%減の3052トン、輸出平均単価はキロ1.6円安の104.1円だった。輸出量は3カ月連続、輸出単価は2

カ月連続して前月実績を下回った。韓国向けの輸出は、申請手続きの厳格化でライセンス切れが相次ぎ、当月は年内ピークの2月（8467トン）から64%、直近で最高水準だった昨年3月（1万9011トン）からは72%減った。

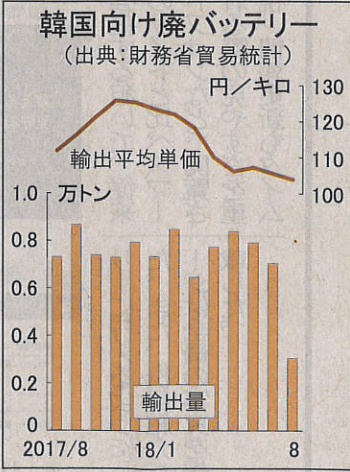
輸出平均単価は年内最安値で、2016年12月（102.3円）以来、1年8カ月ぶりの安値。年内最高値だった1月からは19.5円下落した。主な港別の輸出量と平均単価は、東京港673トン（103.1円）、門司港781トン（10

5円）、大阪港636トン（103.3円）、石狩港335トン（105.6円）だった。前月からの減少率は東京港が59.2%、門司港49.2%、大阪38.8%、石狩港48.9%に達した。主要輸出港だった横浜（前月697トン）

と清水港（同430トン）、秋田船川港（同366トン）は、当月はともに実績がなかった。韓国向けの輸出量の減少は、国内需給や市中相場に影響を与えている。鉛リサイクル源となる廃バッテリーは、昨年まで二次精錬

業が盛んな韓国向けの輸出業者と、国内一次製錬・二次精錬メーカー向けの集荷業者との競合により高値で取引されてきた。ただ、法改正でライセンス更新が全面ストップとなり、足元は大半の輸出業者のライセ

ンスが切れ、国内発生



ンスが切れ、国内発生
の3-4割を占めていた輸出分が国内に滞留。需給や市中相場を軟化させる要因となっている。
足元は、昨年ほど地金需給にタイト感がなく、国内一次製錬メーカーの買い気が一服していることもあり、ここに至り市中相場安に拍車をかけている。一次問屋に持ち込まれる市中取引相場はキロ70円台半ばどころと、年初から30円以上ダウンして2年ぶりの安値圏にある。